

第 4 章

概ね 20 年先を見据えた再生構想

1 再生理念

歴史をつなぎ、未来を創る運河 ～名古屋を支えた水辺に新たな息吹を～

建設当時、「東洋一の大運河」と呼ばれた中川運河は、昭和5年の開通以来、「港湾・物流軸」として名古屋圏の産業発展を支え、工業都市名古屋のまちづくりに貢献してきました。その後、昭和39年をピークに物資の輸送量は年々低下し、現在は、物流基盤としての運河の役割は小さくなっています。

しかし、歴史的な趣きのある中川運河の水辺空間には、懐かしく、五感を揺さぶる魅力があり、昭和の面影を残す倉庫群は、物流が盛んであったかつての水運を物語る証となっています。

そのような歴史的背景を持つ中川運河は、「市民の生活と水辺」、「都心と港のにぎわい」をつなぎ、うるおいある生活と、人びとの交流による活発な市民活動を創出する空間へと発展する可能性があります。また、水質を改善し、緑を配置することにより、様々な生き物が生育・生息できる都市内の貴重な「緑と水の回廊」として、市民に憩いを与えることができます。さらに、未来を支える産業を新たに誘導することにより、名古屋のモノづくりのさらなる発展に貢献することが期待されます。加えて、中川運河がこれまで果たしてきた防災機能をさらに向上させることにより、今後発生が懸念される自然災害に対して、市民の生命と財産を守ることが可能になります。

そこで今後は、名古屋の暮らしとモノづくりの発展を下支えしてきた中川運河の歴史的役割を尊重しながら、都心と名古屋港を結ぶ広大な水辺に新たな価値や役割を見出し、うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河へと再生することにより、中川運河の水辺に新たな息吹を注ぎ、次の世代に継承していきます。

2 再生方針

再生理念を実現するため、再生方針を次のように掲げます。

<方針1>【交流・創造】 人と人、人と運河をつなぎます

1 交流・創造の場の創出

3 魅力ある運河景観の創出

2 歴史まちづくりの展開

4 水上交通の誘導

<方針2>【環境】 水・緑・生き物に親しめる水辺空間を形成します

1 良好な水環境の創出

3 多様な生き物に親しめる場の創出

2 緑豊かな空間の創出

<方針3>【産業】 モノづくりの未来を支え続けます

1 モノづくり産業振興への貢献

2 産業空間の魅力向上

<方針4>【防災】 まちの安全・安心を支え続けます

1 地震・津波災害に対する防災機能の強化

2 豪雨災害に対する防災機能の強化

方針1 【交流・創造】人と人、人と運河をつなぎます

物流中心で、ともすれば、まちや人びとを分断してきた水辺空間を、人びとが集い、交流を深め、創造的活動が営まれるような、人と人、人と運河をつなぐ水辺空間へと発展させることをめざします。

そこで、人びとが文化・芸術活動や水上スポーツを楽しめるよう、気軽に集まり語り合える施設を沿岸用地に誘導します。

また、名古屋の産業の発展を支えてきた歴史資産を継承しながら、個性豊かな運河特有の景観形成を図ります。

さらに、こうした運河の景観を水上から楽しむことができる水上交通を誘導し、都心と港がつながる魅力的なまちづくりに貢献します。



交流の場のイメージ

1 交流・創造の場の創出

魅力ある水辺空間の形成

沿岸用地への憩い・にぎわい施設の誘導

市民や名古屋を訪れる観光客が水辺を楽しめるよう、一部の沿岸用地に、カフェやレストラン、マルシェ等の商業施設や、ギャラリー、アトリエ等の文化・芸術施設を誘導し、憩い・にぎわいのある空間の創出を図ります。

水上スポーツ機能の拡充に向けた環境整備

水上スポーツの場としての魅力を高めるため、関係機関と連携し、関連施設の拡充や活動エリアの拡大を図ります。



水辺空間のイメージ



水上スポーツの様子

交流・創造活動の促進

市民の交流・創造活動の継続的な展開

中川運河のにぎわいと魅力の向上に向けて、運河を舞台とする市民交流や創造活動が継続的に行われるよう支援を行います。



かつての中川運河まつりの様子



倉庫を活用した芸術活動

2 歴史まちづくりの展開

歴史資産の保存・活用

運河や周辺の歴史資産の保存・活用

倉庫群、特徴的なデザインの橋梁、樹木など、歴史的なたたずまいを醸し出す運河特有の空間を保存・活用していきます。

また、運河神社など中川運河の歴史を伝える運河周辺の歴史資産についても活用していきます。

運河を象徴する歴史資産の松重閘門については、市民が誇れるまちの財産として再生することをめざします。



松重閘門



運河神社(上宮)



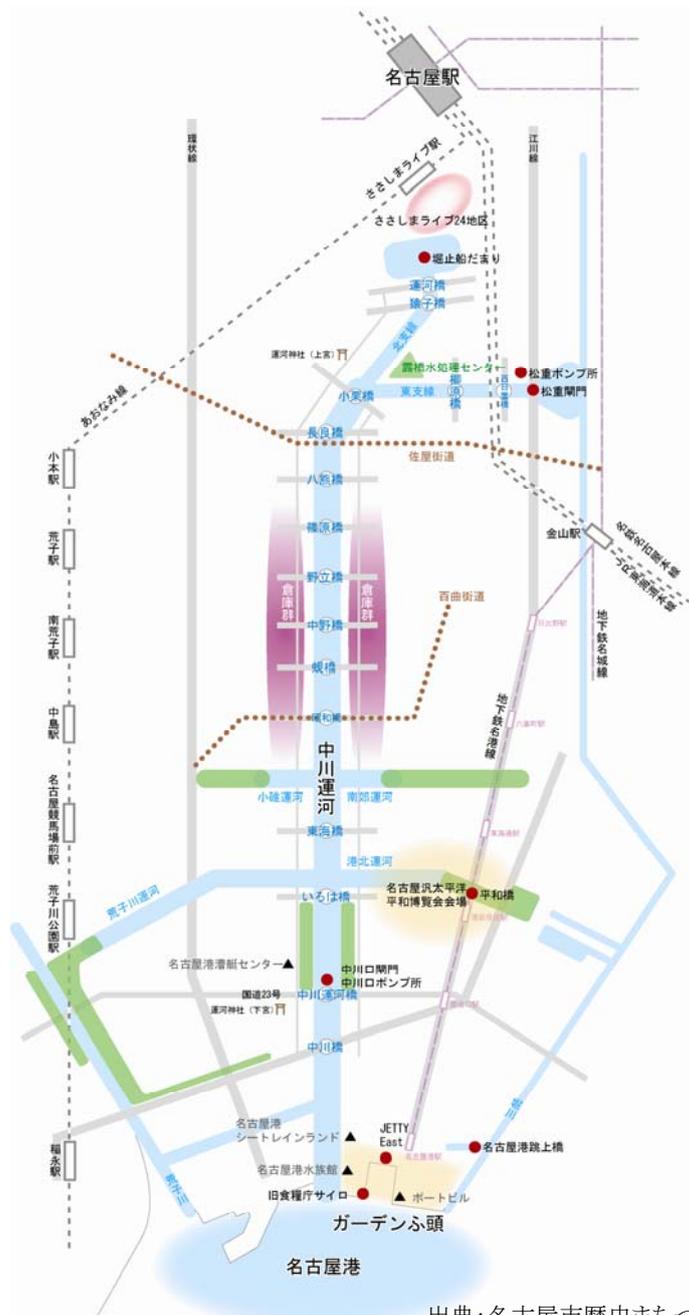
猿子橋



運河沿岸の倉庫群



中川口閘門



出典:名古屋歴史まちづくり戦略

図 4-1 中川運河の歴史資産



佐屋街道をモチーフとした長良橋の親柱



運河建設当初からの石積み護岸

中川運河への愛着と誇りの醸成

歴史資産を活用した活動の展開

倉庫群や松重閘門等の歴史資産を活用した市民活動の継続的な展開に向けた支援を行います。

また、中川運河を生涯学習や学校教育等の教材として活用することにより、市民の中川運河や歴史資産に対する興味・関心を喚起し、中川運河への愛着と誇りの醸成を図ります。



周辺小学校による課外授業の様子



中川運河をテーマとした生涯学習

3 魅力ある運河景観の創出

魅力ある景観形成

運河特有の景観形成の誘導

古い倉庫や荷役施設等の特徴的な景観要素を保存しながら、建物の外観や沿岸の緑化など、運河特有の味わいと魅力を高める景観の創出を図ります。



歴史的な倉庫群



荷役施設のある風景



デザイン性の高い建物と沿岸の緑化
(富山県・富岩運河)

魅力的な景観形成に向けた環境整備

広大で直線的な運河の特性を活かし、統一感とスケール感が感じられる景観の形成に配慮するとともに、プロムナードや橋梁、建築物等の照明を利用した魅力的な夜景の創出を図ります。



中川口緑地のプロムナード



中川口の夜景

運河景観の活用

運河特有の景観要素の活用

運河景観を眺望できる視点場を発掘・創出し、情報発信します。また、運河の魅力ある景観要素を活用した市民活動を促進し、市民が水辺に親しむ機会の創出を図ります。



倉庫越しに名駅ビル群を眺めることのできる視点場
(小栗～長良橋間左岸から右岸を望む景観)



NPO法人伊勢湾フォーラム フォトコンテスト作品より
「名残の施設に陽が昇る」(山田 隆康氏)
荷役施設越しに街を眺めることのできる視点場
(玉川橋から東側を望む景観)

4 水上交通の誘導

水上交通の広域的展開

水上交通の充実とネットワーク化

中川運河は、都心と港をつなぐ貴重な水辺空間です。水上交通を誘導することにより、都心にいながら港を感じることでできる非日常的な空間の創出を図ります。

ガーデンふ頭（名古屋港水族館、シートレインランド等）・金城ふ頭（国際展示場、リニア・鉄道館等）、堀川（名古屋城、納屋橋、熱田神宮等）等と連携した広域的な水上交通網の充実やネットワーク化をめざします。

市民・企業・学校・行政等による連携

市民・企業・学校・行政等による連携を図り、広域的な水上交通の実現をめざします。



図 4-2 広域的な水上ネットワークのイメージ

方針2 【環境】水・緑・生き物に親しめる水辺空間を形成します

「水と緑の回廊」の形成により、緑豊かで生き物に親しめ、自然を感じることもできる水辺空間の創出をめざします。

そこで、水質の改善による良好な水環境の創出、運河沿岸の豊かな緑の形成、生き物に配慮した環境づくりなどに取り組みます。

また、中川運河を環境学習の場として活用することで、市民の環境意識の醸成を図ります。



水・緑・生き物に親しめる水辺空間のイメージ

1 良好な水環境の創出

水辺の利用を踏まえた水環境の改善

多様な手法による水質の改善

中川運河の再生には、良好な水環境の創出が不可欠です。

そこで、環境基本法にもとづく環境基準の達成維持を図るとともに、散策や水上スポーツなど水辺の利用を踏まえた目標を設定し、関係機関と連携して良好な水環境の創出に努めます。

【水質の目標】

○環境基本法にもとづく環境基準

河川E 類型：BOD10mg/ℓ以下等

○水辺利用を踏まえた目標

運河全域で「☆」、エリアによってはさらに上の目標をめざします

区分	親水イメージ	BOD
☆☆☆	川に入っでの遊びが楽しめる	3mg/ℓ
☆☆	水際での遊びが楽しめる	5mg/ℓ
☆	岸辺の散歩が楽しめる	8mg/ℓ

出典：名古屋市環境基本条例に基づく環境目標値(抜粋)

そのため、水循環の促進や下水道からの排水の改善など、効果の高い手法を検討・実施するとともに、市民・企業・学校・行政等の多様な主体の連携によって、水質の改善を図ります。



水循環の要となる松重ポンプ所



市民団体による水質調査

2 緑豊かな空間の創出

豊かな緑の形成

緑地・プロムナードの設置

緑地・プロムナードを設置し、運河を訪れる人が、花の匂いや緑陰を楽しみ、風を感じることでできるような「水と緑の回廊」の形成を図ります。

沿岸用地内の緑化推進

沿岸用地内の緑化を推進することにより、緑豊かで季節感あふれる水辺空間の創出を図ります。

協働による緑の維持管理

緑地・プロムナードは、市民団体・企業等との協働により維持管理を行います。



(幅 5.0mのプロムナード)



(幅 3.5mのプロムナード)

プロムナードの設置イメージ

3 多様な生き物に親しめる場の創出

生き物が生息・生育しやすい環境づくり

生き物に配慮した施設整備

生き物が生息・生育しやすい環境に配慮した緑地・プロムナードや護岸等の整備を行うことにより、市民が生き物に親しみ、自然を身近に感じることでできる水辺空間の形成を図ります。

市民の環境意識の醸成

市民参加型の水生植物調査や生き物観察などを通じ、市民の環境意識の醸成を図ります。



NPO法人伊勢湾フォーラム フォトコンテスト作品より
「千人風呂」(陣尾 静子道氏)

中川運河の水面に佇む鳥

方針3 【産業】モノづくりの未来を支え続けます

中川運河周辺には、港湾・物流産業やモノづくり産業が集積し、名古屋の産業を支えてきました。今後も、その歴史を継承しながら、モノづくりの未来を支え続ける産業空間の形成をめざします。

そこで、沿岸用地においては、港湾・物流産業に加え、今後成長が期待される産業の誘導も進め、産業空間の価値の向上を図ります。

また、運河周辺で働く人びとにとって、働きやすい環境となるよう、水と緑が調和した魅力的な空間づくりを行います。



魅力ある産業空間のイメージ

1 モノづくり産業振興への貢献

多様な産業の新たな誘導

沿岸用地へのモノづくり産業の誘導

名古屋港管理組合ではこれまで基本計画にもとづき、拠点整備や物流空間の再編・高度化に向け、沿岸用地において再開発用地や移転用地（以下、「再開発用地」という。）の確保を進めてきました。

今後は、再開発用地を柔軟に活用することなどにより、従来の港湾・物流産業に加え、モノづくりの未来を支える環境・エネルギー課題解決産業（太陽光、燃料電池等の開発等）、医療・福祉・健康産業（先端医療機器、介護器具等の開発等）、クリエイティブ産業（デザイン、ファッション等）、先端分野産業（情報通信機器等の開発等）などの次代を担う産業も誘導しながら、産業空間の価値をさらに高めていきます。

2 産業空間の魅力向上

良好な産業空間の形成

緑化推進等による沿岸環境の向上

緑地・プロムナードの設置、沿岸用地内の緑化の推進等により、働く人びとにとって魅力的で働きやすい環境を整え、良好な産業空間の形成を図ります。



緑化された産業空間
（兵庫県・尼崎運河）

方針4 【防災】 まちの安全・安心を支え続けます

平成12年の東海豪雨や平成23年の東日本大震災など、これまでの想定を超える自然災害から得た教訓を踏まえ、今後も名古屋のまちの安全・安心を支え続けるために、運河の防災機能のさらなる強化をめざします。

そこで、大規模地震やそれに伴う津波の発生に備え、運河施設の耐震性や耐波性のさらなる強化を図りつつ、防災情報の発信・共有を行います。また、中川運河は、防火・延焼遮断帯としての役割のほか、緊急輸送路としての一翼を担うなど、防災への貢献をめざします。

さらに、中川運河は都市機能が集積する名古屋駅周辺の雨水の排水先となっているため、豪雨に対する治水機能の強化を図ります。



中川口ポンプ所:運河内水を海域に排水する機能
中川口通船門 :市街地への海水の浸入を防ぐ機能

名古屋のまちを守る防災機能

1 地震・津波災害に対する防災機能の強化

地震災害に対する機能強化

運河施設の耐震性や耐波性の強化

将来発生が危惧される大規模地震による津波から、名古屋のまちを守るため、中川口通船門等の運河施設の耐震性や耐波性の強化を図ります。

緊急輸送機能の確保

名古屋市地域防災計画にもとづき、緊急輸送路の一つとして、災害時の対応に貢献します。

防災情報の発信・共有

東日本大震災を踏まえて今後策定される名古屋市地域防災計画での被害想定や避難地、避難路などの防災情報を発信し、市民・沿岸用地利用者等との情報共有を進めます。

2 豪雨災害に対する防災機能の強化

水害に対する機能強化

運河の治水機能の強化

過去最大級の豪雨に対して、名古屋駅周辺地域を始めとする流域内の浸水被害の最小化（床上浸水を概ね解消）を図るため、原則1時間60mmの降雨に対して、運河への連続排水が可能となるように、運河の治水機能の強化をめざします。

水防情報の発信・共有

ポンプの運転状況や水位情報など水防に必要な情報の発信・共有と、市民等の水害に対する意識啓発に努めます。



平成20年8月末豪雨による浸水



運河の治水機能を発揮する中川口ポンプ所のディーゼルポンプ(口径2,200mm)

3 空間計画

1 ゾーニングの考え方

空間計画は、中川運河の再生理念及び再生方針を実現するため、運河及び沿岸用地をゾーニングし、その将来像や誘導の考え方を示したものです。

基本計画では、5つのゾーンと8つの拠点整備地区を設定していましたが、本計画では、土地利用や開発動向等を踏まえ、3つのゾーンに再編します。

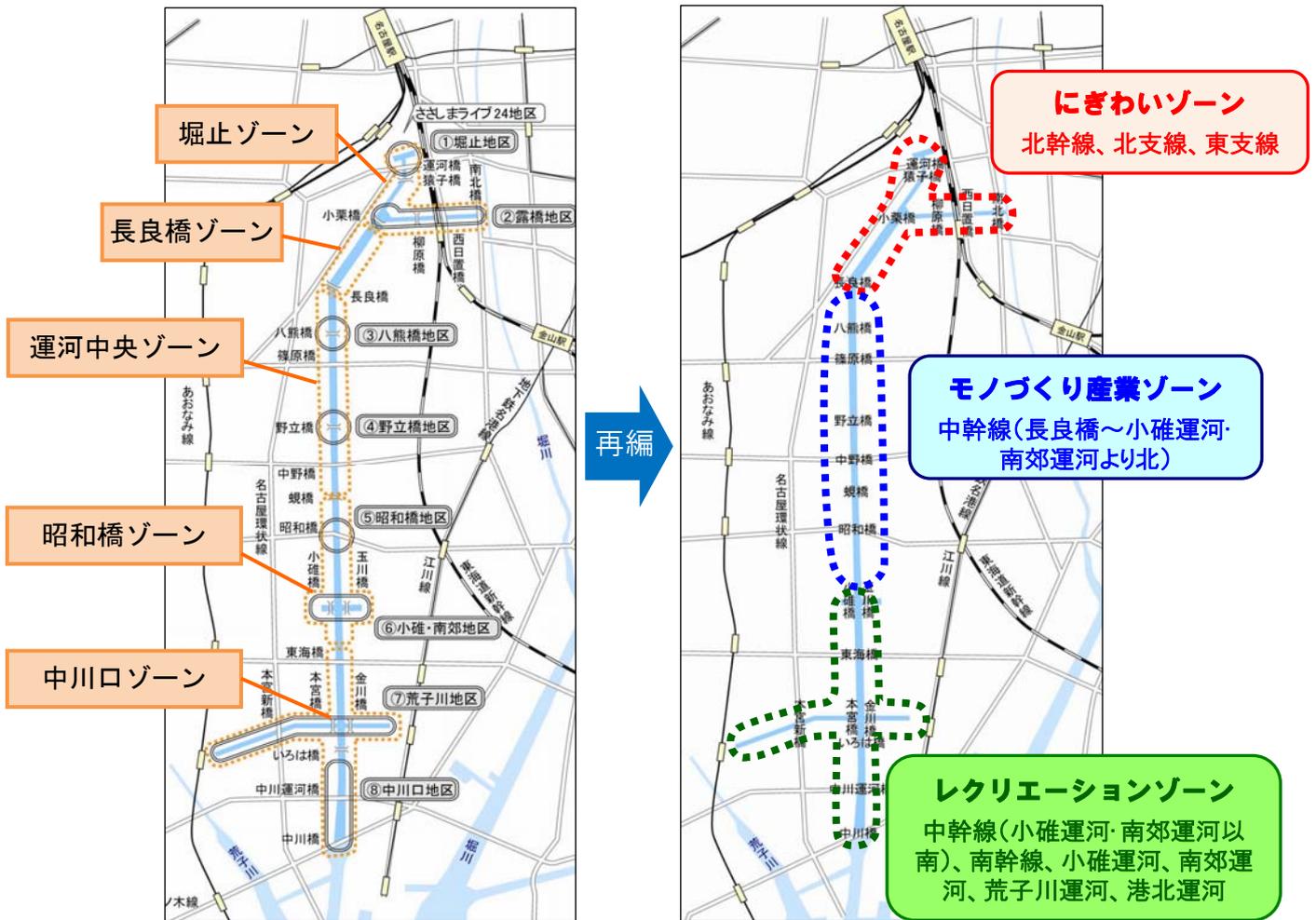


図 4-3 ゾーンの再編

にぎわいゾーン

基本計画の堀止ゾーンは、名古屋駅やささしまライブ24地区に近く、集客のポテンシャルが高い地区であり、運河回遊の導入エリアとしての役割が求められます。また、堀川との接続点には、運河の歴史を物語る松重閘門が存在しています。長良橋ゾーンは、製造・物流・業務などの産業機能が残るゾーンですが、運河上流部で唯一幅員90mの広大な水辺空間であり、近年は歴史のある倉庫群を活用した市民団体の芸術的なイベントが開催されるなど、運河の魅力を発信するにふさわしい水辺景観を形成しています。そこで、基本計画における堀止ゾーンと長良橋ゾーンを一体として「にぎわいゾーン」と位置づけます。

ゾーンの現状

位置・形状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都心部に近接しています。 ・ 北支線・東支線・北幹線がY字状に合流する特徴的な形状をしています。
周辺の鉄道駅	<ul style="list-style-type: none"> ・ あおなみ線ささしまライブ駅、名鉄本線山王駅、近鉄名古屋線米野駅が近くにあります。
沿岸用地の土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北支線・東支線は敷地の奥行きが狭いため、小規模な倉庫や物流関連企業等の建築物が多く立地しています。また、東支線には再開発用地が点在しています。 ・ 北幹線は倉庫や物流関連企業等による土地利用が中心ですが、駐車場、資材置場等の更地利用も多くなっています。
周辺地域の土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北支線・東支線の周辺地域には、住宅が密集しています。 ・ 北幹線の周辺地域には、住宅が密集しているところや、住工混在地があります。
主な地域資産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運河及び沿岸用地に、堀止緑地、露橋水処理センター、松重閘門、松重ポンプ所、松重閘門公園、運河らしい特徴をもつ倉庫群・荷役施設等があります。 ・ 周辺地域には、ささしまライブ24地区、運河神社（上の宮）、中川生涯学習センター、バイオリン製作所等があります。

モノづくり産業ゾーン

基本計画の運河中央ゾーンと昭和橋ゾーンの北側は、現在、物流関連企業が産業活動を展開しているエリアです。これらの企業はこれまで、運河の水運を利用して名古屋のモノづくりの発展を下支えしてきました。現在は、水運から陸運へと輸送形態が転換しましたが、依然として物流を通じて、名古屋圏の経済発展に寄与しています。そこで、両ゾーンを一体として「モノづくり産業ゾーン」と位置づけます。

ゾーンの現状

位置・形状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中川運河の中央部に位置しています。 ・ 形状は直線です。
周辺の鉄道駅	—
沿岸用地の土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸用地の奥行きは約 36mであり、倉庫や物流関連企業、油槽施設等が多く立地しています。 ・ 再開発用地を駐車場等に利用している箇所も多く見られます。 ・ 道路を隔てた後背地との一体的な事業活動を行う企業も多く存在しています。
周辺地域の土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺地域は、住工混在地で、戸建て住宅、マンション、大型店等、都市的な土地利用も見られます。
主な地域資産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸用地に、運河らしい特徴を持つ倉庫群・荷役施設等があります。 ・ 周辺地域には、八家公園、松年公園、昭和橋公園等があります。

レクリエーションゾーン

基本計画の昭和橋ゾーンの南側と中川口ゾーンは、従来から市民によるレガッタやボート競技が行われており、広大な水域を活用した貴重な水上スポーツエリアとなっています。最近では、市民団体によるイベントも開催され、市民が楽しめる空間となっています。また、沿岸用地や周辺地域には、緑地や公園が整備されています。そこで、両ゾーンを一体として「レクリエーションゾーン」と位置づけます。

ゾーンの現状

位置・形状	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋港に接続しています。 ・荒子川運河・港北運河及び南郊運河・小碓運河が直交しています。
周辺の鉄道駅	<ul style="list-style-type: none"> ・港北運河の近くには地下鉄名港線港区役所駅、荒子川運河の近くにはあおなみ線荒子川公園駅があります。
沿岸用地の土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・いろは橋以北の沿岸用地の奥行きは約 36mであり、倉庫や物流関連企業等が多く立地しています。 ・いろは橋から中川橋間は中川口緑地が整備されています。 ・いろは橋の南に名古屋港漕艇センターが立地しています。
周辺地域の土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域は住工混在地で、戸建て住宅地、大規模倉庫、物流関連企業、地下鉄車両整備工場、大規模店舗等が立地しています。
主な地域資産	<ul style="list-style-type: none"> ・運河は水上スポーツの場として利用されています。運河及び沿岸用地には、名古屋港漕艇センター、中川口緑地、中川口通船門等があります。 ・周辺地域には、港明地区工場跡地、運河神社（下の宮）、港区役所、港図書館、港文化小劇場、盲導犬総合訓練センター、大規模商業施設、荒子川公園、南郊公園、本宮公園等があります。

2 ゾーンごとの再生イメージ

にぎわいゾーン

港と文化を感じる都心のオアシス

ささしまライブ 24 地区の開発と連携し、緑地・プロムナードの設置や、沿岸用地へのカフェ、レストラン等にぎわい施設の誘導、水上交通の運航などを展開して、運河の魅力と回遊性を高めるとともに、運河の歴史や文化・芸術を楽しむ市民活動の継続的な実施を通じ、都心地域に集まる人びとが訪れたいくなるような「港と文化を感じる都心のオアシス」の形成をめざします。

再生イメージ

- ・ 緑地・プロムナードが設置され、沿岸用地には商業施設や文化・芸術施設等が立地しており、憩いとにぎわいのある空間となっています。
- ・ 倉庫群や松重閘門等の歴史資産が活用され、味わいと魅力のある景観が形成されています。
- ・ 運河特有の空間を活用した市民による文化・芸術活動が継続的に行われています。
- ・ プロムナードや橋梁、建築物等の照明を利用した魅力的な夜景が演出されています。
- ・ 堀止に乗船場が設置され、都心と港をつなぐ水上交通が運航されています。
- ・ 露橋水処理センターの高度処理水の活用や松重ポンプ所の改修等により、水循環が促進し、良好な水環境が創出されています。



にぎわいゾーンの再生イメージ

モノづくり産業ゾーン

モノづくりを支えるキャナルストリート

港湾・物流軸として名古屋の産業・経済を支えてきた運河の歴史を継承しながら、モノづくりの未来を支える産業との融合を図ることにより、産業空間としての価値が一層高まるような「モノづくりを支えるキャナルストリート」の形成をめざします。

再生イメージ

- ・ 沿岸用地では、再開発用地を活用することにより、従来の港湾・物流産業に加え、モノづくりの未来を支える産業の立地が進んでいます。
- ・ 緑地・プロムナードの設置、沿岸用地内の緑化の推進等により、魅力的で働きやすい環境となっています。



モノづくり産業ゾーンの再生イメージ

レクリエーションゾーン

水と緑のレクリエーションフィールド

名古屋港漕艇センターを中心とする水上スポーツのさらなる活性化や、にぎわいのある名古屋港ガーデンふ頭との連携、周辺の緑地・公園との回遊性向上などにより、緑豊かな水辺で人びとが気軽に交流を楽しめるような「水と緑のレクリエーションフィールド」の形成をめざします。

再生イメージ

- ・ プロムナードの設置によって、周辺の公園・緑地との回遊性が高まり、多くの市民が気軽にレクリエーションを楽しんでいます。
- ・ 水上スポーツの関連施設の拡充や活動エリアの拡大が図られ、ますます水上スポーツが盛んに行われています。
- ・ 中川口通船門等の耐震性・耐波性の強化や、老朽化した中川口ポンプ所の更新など、運河の防災機能の強化が図られています。



レクリエーションゾーンの再生イメージ

3 現状と将来の再生イメージの比較

以下に、現状の土地利用等の様子と、ゾーンごとの再生イメージを比較した図を示します。



図 4-4 現状



図 4-5 将来の再生イメージ

